

1. 整数と小数のしくみをまとめよう [整数と小数] 単元計画 【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) ある数の10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ などの大きさの数を、小数点の位置や小数点の位置を移動してつくることができる。 (2) 数の表し方に着目し、整数及び小数について十進法として統合的に捉えたり、十進位取り記数法の仕組みを基に図や式を用いて計算の仕方を考え表現している。 (3) 整数及び小数の十進法としての特徴について統合的に捉えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。					
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	①ある数の10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ などの大きさの数を、小数点の位置位や小数点の位置を移動してつくることができる。		①数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすことができる。		①整数及び小数の十進法としての特徴について統合的に捉えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。	
小単元	1	2	3	4	5	6
目標	整数と小数は十進位取り記数法で表され、0から9までの数字と小数点を使うと、どんな大きさの整数や小数でも表せることを考え、説明する。(教科書P.8~10)		小数の相対的な大きさを考え、小数をつくることを通して、十進位取り記数法の仕組みを確認する。(教科書P.11)		整数や小数を10倍、100倍…すると、位はそれぞれ1桁、2桁と上がり、小数点の位置は右に移動することを理解する。(教科書P.12)	

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】			① ●整数及び小数を10倍、100倍、1000倍した数をつくることができる。			① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○十進位取り記数法を基に、小数の構成の表し方や小数の相対的な大きさを考え、説明することができる。	① ○小数について、0.001を単位として相対的な大きさを考え、説明することができる。		① ●十進位取り記数法に着目して、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ したときの位や小数点の位置の移り方を考え、説明することができる。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○整数と小数の構成を統合的に捉え、数の構成を図や式に表そうとしている。				① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリルの活用 △教科書の問題番号)

時間	家庭学習 ※A1ドリル(4年5-2)	教科書 P.14△1、2	※A1ドリル(5年1-1)	※共通ドリル(5年1-4、1-5)	※A1ドリル(5年1-2)	※共通ドリル(5年1-8、1-9)
0	①<既習内容の確認> 既習の小数の仕組みについて確認する。	一斉	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①CBT単元テスト【知】 (整数と小数)
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	個別	②2.98を10倍、100倍、1000倍したときの位の変わり方を調べる。	②634を $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ したときの位の変わり方を調べる。	②《パフォーマンス課題》 1000円をアメリカドルに両替して買うことができるお菓子について考える。 【思・ルーブリック評価】	個別
10	③2135と2.135を位取りの表に表し、それぞれの位の数字の表す大きさを調べる。【主】	個別・一斉	③2.98を10倍、100倍、1000倍することを式に表し、小数点の位置の移り方についてまとめる。	③634を $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ することを式に表し、小数点の位置の移り方を説明する。【思】	個別・協働	
15	④2.135の数の仕組みを調べ、説明する。【思】	個別	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.12△4、5	④位や小数点の位置の移り方についてまとめる。		
20	⑤数の構成を式に表し、整数と小数の仕組みをまとめる。	個別・協働	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年1-7) 教科書P.13△6	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年1-7) 教科書P.13△6		
25	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年1-1) 教科書P.10△1、2	個別	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年1-3) 教科書P.14△4	⑥習熟タイム ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。		
30	⑦習熟タイム ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別・協働	⑦習熟タイム ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の解き直しを行う。 ※A1ドリル(5年1-まとめ)を家庭学習とする。	
35					③<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>
40						
45						

2. 直方体や立方体のかさの比べ方と表し方を考えよう〔直方体や立方体の体積〕 単元計画【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 体積の単位を知り、立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解するとともに、体積を求めることができる。 (2) 体積の単位や立方体を構成する要素に着目し、立方体の体積の求め方を考えると、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を統一的に捉え、説明することができる。 (3) 立方体の体積の単位や体積の求め方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①体積の単位を知り、計算による立方体及び直方体の体積の求め方について理解している。 ②立方体や直方体の体積を求めることができる。	①体積の単位や立方体を構成する要素に着目し、立方体の体積の求め方を考えることができる。 ②体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を統一的に捉え、説明することができる。	①立方体の体積の単位や体積の求め方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	1	2	3	4	5	6	7	8
	(1)もののかさの表し方				(2)いろいろな体積の単位			
目標	体積の意味や体積を表す単位 (cm ³) について理解する。 (教科書P.16~18)	単位となる体積を用いて、直方体や立方体の体積の求め方を考え、説明する。 (教科書P.19~20)	直方体、立方体の体積を求める公式を理解し、公式を適用して体積を求める。 (教科書P.20)	直方体を組み合わせた立方体の体積の求め方を、図形の特徴を基にして考え、説明する。 (教科書P.21~23)	体積を表す単位「立法メートル (m ³)」や1 m ³ =1000000 cm ³ の関係について理解する。 (教科書P.26~27)	「内のり」「容積」の意味や容積の求め方、1 L=1000 cm ³ の関係について理解する。体積の単位と長さや面積の単位との関係を、長さを基にして考え、説明する。 (教科書P.27~29)	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	単元末テスト

評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① 直方体や立方体の体積は、1 cm ³ を単位としてその何個分で表すことを理解することができる。		② 直方体、立方体の体積を求める公式を用いて、体積を求めることができる。		① 大きなものの体積は、1 m ³ を単位としてその何個分で表すことを理解することができる。	① 1 L=1000 cm ³ 、1 mL=1 cm ³ の関係を理解することができる。		② ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① 直方体や立方体の辺の長さに着目して、体積を数値化して比べることを考え、説明している。	② 単位となる大きさや、直方体や立方体の辺の長さに着目して、体積の求め方を図や式を用いて考え、説明することができる。		② ●既習の直方体や立方体の形を基に、直方体を組み合わせた立方体の体積の求め方を図や式を用いて考え、説明することができる。		① ●基にする長さに着目して、正方形の1辺の長さが10倍になると面積は100倍に、立方体の1辺の長さが10倍になると体積は1000倍になる関係を見いだすことができる。		① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。
主体的に学習に取り組む態度【主】				① 直方体や立方体の体積を基にして問題解決したことを振り返り、面積の学習と統一的に捉え、価値付けている。			① ●単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(4年13-1)	※共通ドリル(5年2-2)	※共通ドリル(5年2-12)	※A1ドリル(5年2-1)	※A1ドリル(5年2-2)	※共通ドリル(5年2-16)	※A1ドリル(5年2-3)	※A1ドリル(5年2-まとめ)
0	①<既習内容の確認> 長方形と正方形の面積の求め方や単位を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	②直方体や立方体の体積を計算で求める方法を考え、説明する。【思】	②立方体が直方体か立方体かを確認しながら、練習問題に取り組む。 教科書P.20△3	②直方体を組み合わせた立方体の特徴を捉え、図や式を使って体積を表す。【主】	②面積の学習を基に、大きな立方体の体積を表す単位(m ³)を知る。	②内のりと容積の意味を知る。	②《パフォーマンス課題》 プランターの容積に適した土の量を求める。【思・ルーブリック評価】	①CBT単元テスト【知】 (直方体や立方体の体積)
10	③展開図を組み立ててできる立方体のかさはどちらが大きくなるのかを予想する。【知】	③直方体や立方体が1 cm ³ の立方体の何個分かを、計算で求める。	③適用問題に取り組む。【知】 教科書P.20△4	③自分の考えと他者の考えを比較し、共通点や相違点を説明し合う。【思】	③大きな直方体や立方体が1 m ³ の立方体の何個分かを、計算で求める。	③入れ物の内のりの縦、横、深さと容積を求める。	③《パフォーマンス課題》 プランターの容積に適した土の量を求める。【思・ルーブリック評価】	
15	④1辺が1 cmの立方体の積み木の数で直方体や立方体の大きさを調べ、説明する。【思】							④直方体や立方体が1 cm ³ の立方体の何個分かを、計算で求める。
20								
25	⑤体積の意味とその単位 (cm ³)を知る。	④直方体や立方体の体積を、公式を使って求める。	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年2-3)	④直方体を組み合わせた立方体の体積は、直方体や立方体を基にして考えると求められることをまとめる。	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.27△1	④1 L=1000 cm ³ の関係を基に、1辺の長さや正方形の面積、立方体の体積の単位関係について考え、説明する。【知・思】		
30	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年2-1) 教科書P.18△2	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年2-11) 教科書P.30△1	⑤習熟タイム ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年2-14) 教科書P.30△4	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年2-6) 教科書P.30△3	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年2-17) 教科書P.30△4	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の直し直しを行う。 ※A1ドリル(5年おすすり問題)を家庭学習とする。
35	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。						
40								
45							⑥<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>

3. 変わり方を調べよう(1) [比例] 単元計画【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 一方が2倍、3倍、4倍、...になるとき、他方も2倍、3倍、4倍、...になる二つの数量の関係について知る。 (2) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することができる。 (3) 伴って変わる2つの数量の特徴の考察の方法や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 一方が2倍、3倍、4倍、...になるとき、他方も2倍、3倍、4倍、...になる2つの数量の関係について理解している。	① 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することができる。	① 伴って変わる2つの数量の特徴の考察の方法や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。
小単元	1	2	3
	比例		まとめ
目標	「比例」の関係について理解し、その関係を使って表にない部分の体積の求め方を考え、説明する。 (教科書P.32~35)	数直線が比例の関係を表していることを理解し、数直線を活用して問題を解決する。比例の関係を表した数直線を用いて、式の立て方や答えの求め方を考え、説明する。 (教科書P.36~37)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●表を用いて比例の関係を見いだすことができる。	① ○既習の掛け算の場面について比例の関係であることを理解し、数直線を使って問題を解決することができる。		① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○比例の関係を使った体積の求め方を考え、説明することができる。	① ●比例の関係に着目して、数直線を使った式の立て方や答えの求め方を考え、説明することができる。	① ●数学的着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】			① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリルの活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(4年12-1)	※A1ドリル(5年3-1)	※共通ドリル(5年3-2)	※A1ドリル(3-まとめ)	
0	①<既習内容の確認> 面積を求める公式を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。	①CBT単元テスト【知】 (比例)	
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	②表から2つの数量関係の関係を見だし、比例の関係であることを確かめる。	②《パフォーマンス課題》 折り紙の枚数を基に、条件に適した作れる輪っかの数や輪飾りの長さを判断する。【思・ループリック評価】		
10	③底面を固定して、直方体の高さを2倍、3倍、...にすると、体積はどのように変化するか調べる。【知】	③巻末(教科書P.140~141)の「数直線の図のかき方」を参照しながら、比例の関係は数直線で表せることを確認する。			個別・協働
15		④数直線に表した比例の関係を使って、問題を解決する。【知】【思】			
20	④「比例」の意味を知る。	⑤数直線を活用して問題解決できたことをまとめる。			個別・協働
25	⑤高さが30cmのときの直方体の体積について、比例の関係を使った求め方を考え、説明する。【思】				
30	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年3-2) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け><概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の直しを行う。 ※A1ドリル(おすすめ問題)を家庭学習とする。	
35					※共通ドリル(5年3-1) ・ステップ2
40			③<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>	
45					

5. わり算の世界を広げよう [小数のわり算] 単元計画 【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 除数が小数の場合の除法の意味を理解し、除法の計算ができるとともに、小数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。 (2) 除法の意味に着目し、除法の性質を活用して、除数が小数の場合の除法の意味を捉え直すとともに、計算の仕方を図や式を用いて考え表現している。 (3) 除数が小数の場合を考えることを通じて除法の意味を捉え直したり、その計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 除数が小数である場合の除法の意味について理解している。 ② 小数の除法の計算ができる。 ③ 余りの大きさについて理解している。 ④ 小数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。	① 除法の意味に着目し、除数が小数である場合まで数の範囲を広げて除法の意味を捉え直しているとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりしている。	① 小数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	1	2	3	4	5	6	7
目標	小数で割ることの意味を図や式を用いて考え、説明する。 (教科書P.52~54)	(整数)÷(小数)の計算の仕方を数直線を用いて考え、説明する。 (教科書P.55~56)	除法の性質に着目し、(小数)÷(小数)の計算の仕方を理解する。 (教科書P.56~57)	(小数)÷(小数)の筆算の仕方を理解し、答えを求める。 (教科書P.58)	純小数で割ると、商は被除数より大きくなることを理解し、その理由を説明する。 (教科書P.59~60)	小数の除法で商を概数で求めるときの処理の仕方を理解し、商を概数で表す。 (教科書P.60)	小数の除法での余りの意味を理解し、商と余りを求める。 (教科書P.61)

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③④は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	④ ●(整数)÷(小数)の既習の計算や数直線を用いて考え、答えを求めることができる。	② ○(小数)÷(小数)の計算の仕方を、乗法の性質を活用して考え、答えを求めることができる。	② ●(小数)÷(小数)の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	① ○除数が純小数の場合は、商が被除数より大きくなることを理解している。	① ●小数の除法の商を概数で表す方法を理解し、商を概数で表すことができる。	③ ●小数の除法での余りの小数点の位置を理解し、商と余りを求めることができる。
思考・判断・表現【思】	① ○整数を小数で割る意味について、既習の倍の見方を利用して考え、説明することができる。	① ○(整数)÷(小数)の計算の仕方を、小数の構成や除法の性質に着目して整数の計算に帰着して考え、説明することができる。	① ○被除数と除数に着目して、被除数の末尾の0を補うことや、商の一位に0を書くことを理解している。	① ●除数が帯小数の場合と、純小数の場合の被除数と商の大きさについて、数直線を用いて考え、説明することができる。		
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○整数を小数で割るとき、(全量)÷(幾つ分)が適用できないことに気付き、図や式を用いて式の意味を捉えようとしている。				① ○小数の除法の商を概数で表す方法を、既習を基に考え、学習に生かそうとしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(4年14-4)	※共通ドリル(5年5-1)	※共通ドリル(5年5-2)	※A1ドリル(5年5-1)	※A1ドリル(5年5-2)	※A1ドリル(5年5-3)	※共通ドリル(5年5-20)
0	一斉 ①<既習内容の確認> 既習の除法の性質や筆算の手順について確認する。	一斉 ①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉 ①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉 ①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉 ①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉 ①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉 ①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)
5	個別 ②整数のときの立式を基に、立式の仕方を考える。	個別 ②300÷2.5の計算の仕方を考える。【知】	個別 ②比例の関係から乗法の性質を活用して立式し、□を求める除法の式に表す。	個別・協働 ②2.34÷3.9、1.8÷2.4、8÷2.5の被除数と除数の大きさに着目して、筆算の仕方をまとめる。【思】	個別・協働 ②問題から数直線の図に表し、立式して商を求める。【知】	個別 ②2.5÷1.5を計算する。	個別 ②2.5÷0.7の計算をし、余りを求める。
10	個別・協働 ③式の理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する。【思】	個別・協働 ③数直線や式を使って、自分の考えを説明する。【思】	個別・協働 ③7.56÷6.3の計算の仕方を考える。【知】	個別 ③適用問題に取り組む。【知】 教科書P.58△3、4	個別・協働 ③純小数で割ると、商が被除数より大きくなり、帯小数で割ると、商は被除数より小さくなることを、数直線を用いて説明する。【思】	個別・協働 ③割り切れないときの、商の表し方について考え、上から2けたの概数で表す。【主】	個別・協働 ③余りの大きさについて考え、余りの大きさを図や検算の式で確かめる。
15	個別・協働 ④既習の乗法の意味を基にして、除法の意味を捉え直す。【主】	一斉 ④(整数)÷(小数)の計算の仕方をまとめる。	一斉 ④除法の性質に着目して、筆算の仕方を考える。	個別 ④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年5-5、5-9)	一斉 ④除数の大きさによる商の大きさについてまとめる。	個別 ④商を概数で表すことをまとめる。	一斉 ④小数の除法の余りの大きさについてまとめる。
20	個別・協働 ⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※作問した問題 ・ステップ2	個別 ⑤練習問題に取り組む。 教科書P.56△1	個別・協働 ⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5-3) 教科書P.58△2	個別・協働 ⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別 ⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年5-12) 教科書P.60△5	個別・協働 ⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.60△7	個別 ⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.61△8
25	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2	個別・協働 ⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年5-17) ・ステップ2
30							
35							
40							
45							

小数の倍 単元計画【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や簡単な割合による比較について理解し、「基準量」や「比較量」、「倍」を求めたり、割合で比較したりすることができる。 (2) 2量の関係に着目し、基準量や比較量が小数の場合の倍の意味を捉え直すとともに、簡単な割合による比較の仕方について図や式などを用いて考え表現している。 (3) 基準量や比較量が小数の場合を考えることを通して倍の意味について捉え直したり、その計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。							
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	①基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や簡単な割合による比較について理解している。 ②倍を表す数が小数の場合の「基準量」や「比較量」、「倍」を求めたり、割合で比較したりすることができる。		①2量の関係に着目し、基準量や比較量が小数である場合まで数の範囲を広げて倍の意味を捉え直しているとともに、それらの簡単な割合による比較の仕方考えた、それらを日常生活に生かしたりしている。			①小数の倍について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
小単元	1	2	3	4	5	6	7	
	小数の倍						まとめ	単元末テスト
目標	2量の関係について、基準量を変えると倍を表す数が変わることを押さえ、倍の意味の理解を深める。 (教科書P.64~65)	比較量、基準量が小数の場合も、倍を求めるときは除法を用いればよいことを、図や式を用いて考え、説明する。 (教科書P.66)	小数倍の意味について、図や式を用いて考え説明し、倍の意味の理解を深める。 (教科書P.67)	倍を表す数が小数の場合基準量を求めるときは□を用いて乗法の式に表し、基準量を求める。 (教科書P.68)	倍を表す数が小数の場合も、倍を使った比較の仕方考え、説明する。 (教科書P.69)	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。		

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●2量の関係について、基準量を変えると倍を表す数が変わることを理解している。	② ○比較量、基準量が小数の場合でも、倍を求めるには除法を用いれば良いことを理解し、倍を求めることができる。	① ○整数倍と小数倍の意味を統合的に理解している。	② ●倍を表す数が小数の場合も、未知数を□として数量の関係を乗法の式に表し、基準量を求めることができる。			② ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】		① ○2量の関係に着目して、比較量、基準量が小数の場合の倍の求め方を図や式を用いて考え、説明することができる。	① ○2量の関係に着目して、小数倍の意味について図や式を用いて考え、説明することができる。		① ●既習を基にして、割合による比較の仕方考え、説明することができる。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】					① ○割合で比べる方法を日常生活の場面で活用しようとしている。	① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(5年5-4)	※共通ドリル(5年5-22)	※共通ドリル(5年4-23)	※共通ドリル(5年4-24)	※共通ドリル(5年5-23)	※共通ドリル(5年5-25)	※A1ドリル(5年5-5)
0	①<既習内容の確認> 差や倍で大きさを比べてきたことを振り返り、倍の意味を確認する。	一斉	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	一斉	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	個別	②数直線に表した基準量と比較量の大小関係を基に、比較量を求める。	個別	②基準量と比較量の大小関係を考え、数直線に表す。	個別	②《パフォーマンス課題》 多機能ペンが一番お得に買えるお店を、根拠を持って判断する。【思・ルーブリック評価】
10	③基準量を変えて、それぞれ倍で表す。	個別・協働	③倍を表す式の意味を、図や式を用いて考え、説明する。【思】	個別・協働	③基準量の求め方を考える。	個別・協働	
15	④基準量を変えると倍を表す数が変わることをまとめる。	個別・協働	③数直線を使って、3.6や1.8は2.4の何倍か考え、説明する。【思】	個別・協働	④答えが表す数の意味を考える。	個別・協働	
20		個別	④小數倍についてまとめる。	一斉	④基準量を求めるには、□を使った乗法の式に表して考えることをまとめる。	一斉	
25	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.65△1	一斉	④小數倍の意味を、整数倍の意味と統合的にまとめる。【知】	個別	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.68△2	一斉	⑤比べ方についてまとめる。
30		個別	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉 から適切なものを設定する。	個別	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉 から適切なものを設定する。	個別	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年5-24) ・ステップ2 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉 から適切なものを設定する。
35	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年4-22) ・ステップ2	個別・協働	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年4-25) ・ステップ2	個別・協働	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉 から適切なものを設定する。	個別	
40		個別		個別		個別	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の直しを行う。 ※A1ドリル(5年5-まとめ)を家庭学習とする。
45		個別		個別		個別	⑤<単元の振り返り>【主】 ⑥<振り返り>

7. 図形の角を調べよう [図形の角] 単元計画【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 三角形の内角の和について理解し、それを基に四角形や他の多角形の内角の和を求めることができる。 (2) 図形の角に着目し、三角形の内角の和についての性質を見だし、それを基に四角形や他の多角形の内角の和について演繹的に考え、説明している。 (3) 三角形の内角の和が180°であることを基に、四角形や他の多角形の性質を考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。					
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	① 三角形の内角の和について理解し、それを基に四角形や他の多角形の内角の和を求めることができる。		① 図形の角に着目し、三角形の内角の和についての性質を見だし、それを基に四角形や他の多角形の内角の和について演繹的に考え、説明することができる。		① 三角形の内角の和が180°であることを基に、四角形や他の多角形の性質を考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。	
小単元	1	2	3	4	5	6
目標	三角形と四角形の角			まとめ		単元末テスト
目標	三角形の角の大きさについて調べ、内角の和の性質を見だし、説明する。 (教科書P.84~86)	三角形の内角の和は180°であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求める。 (教科書P.86)	三角形の内角の和を基にして、四角形の内角の和を考え、説明する。 四角形が敷き詰められる理由を、内角の和を基に考える。(教科書P.87~89、P.91)	「多角形」を知り、多角形の内角の和の求め方を考え、説明する。 (教科書P.89~90)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。	

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】		① ●三角形の内角の和は180°であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求めることができる。		① ○多角形の内角の和は、三角形に分けることによって求められることを理解し、求めることができる。		① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○三角形の角の大きさに着目して、内角の和の性質を見だし、説明することができる。		① ●三角形の内角の和を基にして、四角形の内角の和の求め方を演繹的に考え、説明することができる。	① ○三角形の内角の和を基に、多角形の内角の和を三角形に分けて求める方法を考え、説明することができる。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○三角形の3つの角の大きさの関心に関心をもち、性質を見いだそうとしている。		① ○敷き詰めた図形の中に既習の図形の性質を見いだそうとしている。		① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしている。	

学習の流れ(目安:分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリルの活用 △教科書の問題番号)

家庭学習 時間	※A1ドリル(4年4-1)	※共通ドリル(5年8-1)	※A1ドリル(5年7-1)	※共通ドリル(5年8-3)	※A1ドリル(5年7-2)	※共通ドリル(5年8-6、8-8)
0	①<既習内容の確認> 三角定規の角の大きさを確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<パフォーマンス課題> 第1時で提示された課題を再度把握する。	①CBT単元テスト【知】 (図形の角)
5	②<パフォーマンス課題> 提示された課題を把握する。	②いろいろな三角形について、3つの角の大きさの和が180°になることを確認する。	②角度を測らないで四角形の4つの内角の和を求める方法を考え、図や式を使って表す。	②「五角形」「六角形」「多角形」の意味を理解する。	②<パフォーマンス課題> 図形の性質を基に、犬小屋の屋根の適切な角の大きさを考える。【思・ルーブリック評価】	個別
10	③正三角形や二等辺三角形を基に、三角形の3つの角の大きさを表にまとめる。【主】	③適用問題に取り組む。【知】 教科書P.86△1	③四角形を、2つの三角形に分けた考えと、4つに分けた考えの違いに着目して、内角の和の求め方について説明する。【思】	③五角形、六角形の内角の和の求め方について考え、説明する。【知】 【思】		
15	④表から分かることについて話し合う。【思】			④五角形、六角形の内角の和の求め方についてまとめる。		
20	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年8-2) 教科書P.92△2	④四角形の内角の和の求め方についてまとめる。	④四角形の内角の和の求め方についてまとめる。	④五角形、六角形の内角の和の求め方についてまとめる。		
25				⑤三角形の3つの角の和についてまとめる。	⑤多角形の内角の和を表にまとめる。	
30	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け><概念形成><活用問題><問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑤共通ドリル(5年8-2) 教科書P.92△2 ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け><概念形成><活用問題><問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑤巻末(教科書P.147)にある合同な四角形を敷き詰め、隙間なく敷き詰められる理由を考える。【主】	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年8-10) 教科書P.92△3	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の解き直しを行う。 ※A1ドリル(5年7-まとめ)を家庭学習とする。	
35				⑥合同な四角形が敷き詰められることをまとめる。		⑥多角形の内角の和を基に、多角形の内角の和の求め方を三角形に分けて求める方法を考え、説明することができる。【知】 【思】
40	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け><概念形成><活用問題><問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑥合同な四角形が敷き詰められることをまとめる。	⑥合同な四角形が敷き詰められることをまとめる。	⑥五角形、六角形の内角の和の求め方についてまとめる。	⑤<単元の振り返り>【主】	⑤<振り返り>
45				⑥合同な四角形が敷き詰められることをまとめる。		

8. 整数の性質を調べよう〔偶数と奇数、倍数と約数〕 単元計画【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 偶数、奇数、及び倍数、約数の意味を理解し、偶数と奇数を類別したり倍数と約数を求めたりすることができる。 (2) 乗法及び除法に着目し、整数を偶数と奇数の2つの集合に類別して捉えたり、倍数と約数の集合を捉えたりするとともに、整数の性質を図や式を用いて考え表現することができる。 (3) 整数の性質について、観点を決めて類別したり、倍数と約数の集合を捉えたりした過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①偶数、奇数、及び倍数、約数の意味について理解している。 ②偶数と奇数を類別することができる。 ③倍数と約数を求めることができる。	①乗法及び除法に着目し、整数を偶数と奇数の2つの集合に類別して捉えたり、倍数と約数の集合を捉えたりしている。 ②整数の性質を図や式を用いて考え表現することができる。	①整数の性質について、観点を決めて類別したり、倍数と約数の集合を捉えたりした過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	(1) 偶数と奇数			(2) 倍数と公倍数			(3) 約数と公約数			まとめ	単元末テスト	
目標	整数を2つに分ける方法を考える。 (教科書P.94~95)	偶数と奇数の意味や性質を知り、整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。 (教科書P.96)	偶数と奇数を式に表し、その性質を考え、説明する。 (教科書P.97)	倍数の意味を考え、説明する。 (教科書P.98)	公倍数と最小公倍数の意味を理解する。 (教科書P.99)	2数の公倍数は、最小公倍数の倍数になっていることを理解し、2数の公倍数を求める。 (教科書P.100)	2数の公倍数の求め方を活用して、3数の公倍数の求め方を考え、説明する。 (教科書P.101)	約数の意味を考え、説明する。 (教科書P.102~103)	公約数と最大公約数の意味を理解する。 (教科書P.103)	2数の公約数は、最大公約数の約数になっていることを理解し、2数の公約数を求めることができる。 (教科書P.104)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付けを行う。	

評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	② ○偶数と奇数の意味を理解し、整数を偶数と奇数に類別することができる。				① ○倍数、公倍数、最小公倍数の意味を理解している。	③ ●2数の最小公倍数を活用し、公倍数を求めることができる。	③ ○3数の公倍数の求め方を理解し、公倍数を求めることができる。		① ○約数、公約数、最大公約数の意味を理解している。	③ ○2つの数の最大公約数を活用し、公約数を求めることができる。		③ ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○2つに分けられた整数の特徴に着目し、その分け方を考え、説明することができる。		② ○偶数を $2 \times \square$ 、奇数を $2 \times \square + 1$ の形に表し、式の意味や性質を考え、説明することができる。	① ○3の倍数や4の倍数に着目し、倍数の意味を考え、説明している。	② ○数直線を活用して、倍数は規則的な間隔で限りなく存在することに気付くことができる。	① ○公倍数の意味や性質などに着目し、公倍数の求め方を考えている。	② ○2数の公倍数の求め方を活用して、3数の公倍数の求め方を考え、説明することができる。	② ●約数の個数は有限であることに気付き、説明することができる。	② ○2つの数の約数に着目し、公約数の意味を考え、説明することができる。		① ●数学的着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○整数を2つに分ける方法について考えようとしている。										① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

時間	※A1ドリル(5年1-1)	※A1ドリル(5年1-まとめ)	※A1ドリル(5年8-1)	※共通ドリル(5年9-2)	※共通ドリル(5年9-5)	※A1ドリル(5年8-2)	※共通ドリル(5年9-7)	※A1ドリル(5年8-3)	※共通ドリル(5年9-10)	※A1ドリル(5年8-4)	※A1ドリル(5年8-5)	※A1ドリル(5年8-まとめ)
0	①既習内容の確認 整数について確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	②偶数と奇数の意味を知る。	②偶数、奇数を式に表す。	②鉛筆とキャップの数を表を使って調べ、それぞれの集合の性質について話し合う。	②鉛筆とキャップの数が等しくなるときの数はどんな数かを考える。【思】	②4と6の最小公倍数の見付け方を考える。【思】	②2と3と4の公倍数の求め方を考え、説明する。【思】	②長方形の縦方向に正方形を隙間なく敷き詰める場合の、正方形の1辺の長さを表を使って考える。	②公約数と最大公約数の意味を知る。	②24と36の公約数の求め方を考える。	②《パフォーマンス課題》 条件に適した学習発表会の保護者席の配置について説明する。【思・ルーブリック評価】	②C B T単元テスト【知】 (整数の性質)
10	③整数をどのような観点で2つに分けているかを調べる。【主】	③数直線上に、偶数と奇数はどのように並んでいるかを調べる。	③式の意味や性質を考え、説明する。【思】	③倍数の意味を知る。	③公倍数と最小公倍数の意味を知り、まとめる。	③最小公倍数と公倍数に着目し、公倍数の見付け方についてまとめる。	③最小公倍数の倍数になっていることを確認し、求め方をまとめる。	③約数の意味を知る。	③12と18の最大公約数を考える。【思】	③24と36の最大公約数を求め、気付いたことを話し合う。	③適用問題に取り組む。【知】 教科書P.103△2	③個別
15	④2つに分けられた数の特徴を調べて、整数の分け方を考え、説明する。【思】	④整数は、偶数と奇数に分けられることをまとめる。	④偶数と奇数の性質をまとめる。	④鉛筆とキャップの数がどんな数の倍数になっているかを考え、説明する。【思】	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.99△1	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.100△2、3	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.101△5	④12の約数同士にどんな関係があるかを考え、説明する。【思】	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.103△2	④24と36の最大公約数を求め、気付いたことを話し合う。	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	④個別
20	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※作問した問題 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-3) 教科書P.106△2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-4) 教科書P.106△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-6) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-8) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-9) 教科書P.106△4① ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-11) 教科書P.106△5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-12) 教科書P.104△3、5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑤個別
25	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-3) 教科書P.106△2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-4) 教科書P.106△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-6) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-8) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-9) 教科書P.106△4① ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-11) 教科書P.106△5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-12) 教科書P.104△3、5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑥適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑥個別
30	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-3) 教科書P.106△2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-4) 教科書P.106△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-6) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-8) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-9) 教科書P.106△4① ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-11) 教科書P.106△5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-12) 教科書P.104△3、5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑦適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑦個別
35	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-3) 教科書P.106△2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-4) 教科書P.106△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-6) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-8) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-9) 教科書P.106△4① ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-11) 教科書P.106△5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-12) 教科書P.104△3、5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑧適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑧個別
40	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-3) 教科書P.106△2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-4) 教科書P.106△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-6) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-8) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-9) 教科書P.106△4① ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-11) 教科書P.106△5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-12) 教科書P.104△3、5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑨適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑨個別
45	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-1) 教科書P.96△1、2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-3) 教科書P.106△2 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-4) 教科書P.106△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-6) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-8) 教科書P.106△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-9) 教科書P.106△4① ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-11) 教科書P.106△5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年9-12) 教科書P.104△3、5 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑩適用問題に取り組む。【知】 教科書P.104△4	⑩個別

9. 分数と小数、整数の関係を調べよう [分数と小数、整数の関係] 単元計画【新しい算数5上 東京書籍】

単元の目標	(1) 除法の結果は、分数を用いると常に1つの数で表せることや、分数と小数、整数の関係を理解するとともに、 $a \div b$ を a/b 、 a/b を $a \div b$ とみたり、分数を小数で表したり、小数や整数を分数の形に表したりすることができる。 (2) 分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめている。 (3) 整数の除法の結果を分数で表したり、分数と小数、整数の関係を考えたりした過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。					
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	① 整数の除法の結果は、分数を用いると常に1つの数として表すことができることを理解している。 ② 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすることができる。		① 分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめている。		① 整数の除法の結果を分数で表したり、分数と小数、整数の関係を考えたりした過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりする。	
小単元	1 わり算と分数		3 分数と小数、整数の関係		5 5 6 6	
目標	除法の商は分数を用いて表せることを理解し、表す。 (教科書P.108~111)		整数の商を分数で表せることを活用して、分数を小数で表す方法を考え、説明する。 (教科書P.113~114)		学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値づける。	

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●整数の除法の商は分数で表せることを理解している。	① ○分数倍の意味を理解している。	② ○分数を小数で表す方法を理解し、分数を小数や整数で表すことができる。	② ●小数や整数を分数で表すことができる。	② ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】			① ●分数を整数の除法の式で表せることを活用して、分数を小数で表す方法を考え、説明することができる。	① ○小数の構成に着目して、小数を分数で表す方法を考え、説明することができる。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○整数の除法の商は分数で表す方法を図を活用して考えようとしている。				① ●単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリルの活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(3年15-まとめ)	※A1ドリル(5年9-1)	※A1ドリル(5年9-2)	※A1ドリル(5年9-3)	※共通ドリル(5年10-7、10-8)	※A1ドリル(5年9-4)
0	①<既習内容の確認> 既習の分数と小数、整数の関係を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<パフォーマンス課題> 第1時で提示された課題を再度把握する。	①CBT単元テスト【知】 (分数と小数、整数の関係)
5	②<パフォーマンス課題> 提示された課題を把握する。	②基準量、比較量を捉えて立式し、何倍かを分数で表す。	② $3 \div 5$ の商を分数と小数で表し、0.6と $3/5$ が等しいことを数直線で確かめる。	②0.3、0.29、1.57を分数で表す方法を考え、説明する。【思】	②<パフォーマンス課題> 小数や分数で表されたタイムを比較する。【思・ループリック評価】	
10	③ $2 \div 3$ 、 $4 \div 3$ の商を分数で表す方法を考える。【主】	③分数倍についてまとめる。	③ $3/4$ 、 $2/9$ を小数で表す方法を考え、説明する。【思】	③4、12を分数で表す方法をまとめる。	個別・協働	個別
15	④ $a \div b$ を a/b としてみることをまとめる。	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.112△5	④帯分数を小数で表す方法をまとめる。	④小数や整数を分数で表す方法を考える。【知】		
20	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.111△1、2	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年10-3) 教科書P.116△2	⑤分数を小数で表す方法を考える。【知】	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年10-6) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。		
25	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年10-2) ・ステップ2	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年10-5) 教科書P.114△1	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年10-5) 教科書P.114△1	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年10-5) 教科書P.114△1		
30		⑦<概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑦<概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑦<概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	③<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>
35						
40						
45						

10. 分数のたし算、ひき算を広げよう [分数のたし算とひき算] 単元計画 【新しい算数5下 東京書籍】

単元の目標	(1) 分数の性質や約分、通分の意味、分数の相等及び大小について理解するとともに、異分母の分数の加減計算ができる。 (2) 単位分数に着目して、分数の相等及び大小関係や、異分母の分数の加減計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。 (3) 約分や通分の意味や、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。												
	知識・技能			思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度					
単元の評価規準	① 1つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解している。 ② 分数の相等及び大小について知り、大小を比べることができる。 ③ 異分母の分数の加法及び減法の計算ができる。			① 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察することができる。 ② 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考え、表現している。				① 約分や通分の意味や、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。					
小単元	1 (1) 分数のたし算、ひき算と約分、通分			2 (1) 分数のたし算、ひき算と約分、通分			3 (2) いろいろな分数のたし算、ひき算		4 (2) いろいろな分数のたし算、ひき算		5 (3) 時間と分数	6 まとめ	7 単元末テスト
目標	異分母の分数の加減計算について、分母を揃えることの意味を考え、説明する。 (教科書P.2~4)	分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらないことを見だし、大きさの等しい分数のつくり方を説明する。 (教科書P.5~6)	「約分」の意味について理解する。 (教科書P.7~8)	「通分」の意味について理解する。 (教科書P.9~11)	異分母の分数の加減計算の仕方や答えの表し方を考え、説明する。 (教科書P.12)	異分母の帯分数の加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。 (教科書P.13)	分数と小数の混じった加減計算の仕方を、数の表し方に着目して考え、説明する。 (教科書P.14)	分数を用いた時間の表し方を理解する。 (教科書P.15)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。				

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	○大きさの等しい分数のつくり方を理解し、大きさの等しい分数をつくることができる。	①	●分数の性質を使った約分の仕方を理解し、約分することができる。	②	●分数の大きさの比べ方を理解し、異分母の分数を通分することができる。	③	○異分母の分数の加減計算の仕方を理解し、計算ができる。	○異分母の分数の加減計算の仕方を理解し、計算ができる。	○時間を、何等分かしたうちの幾つ分と捉え、分数で表すことができる。	③	●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	○異分母の分数の加減計算の仕方について、単位分数に着目して、分母を揃えることの意味を考え、説明することができる。	①	○通分の仕方を、分母の最小公倍数に着目して考えている。	②	○異分母の分数の加減計算の仕方を、単位分数の意味や分数の表現に着目して考え、説明することができる。	②	●分数と小数の混じった加減計算の仕方を、分数と小数の表し方に着目して考え、説明することができる。	○分数と小数の混じった加減計算の仕方を、既習を基に考え、学習に生かそうとしている。	○数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	①	
主体的に学習に取り組む態度【主】	○異分母の分数の加減計算は、分母を揃えると計算できることに気付き、大きさの等しい分数を見付けようとしている。	①								①	●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。

学習の流れ (目安：分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル (4年11-まとめ)	※共通ドリル (5年11-2)	※A1ドリル (5年10-1)	※共通ドリル (5年11-4, 11-5)	※A1ドリル (5年10-2)	※A1ドリル (5年10-3)	※共通ドリル (5年11-17)	※A1ドリル (5年10-6)	※A1ドリル (5年10-7, 10-8)	※A1ドリル (5年10-5)
0	①<既習内容の確認> 分数と小数の関係や同分母の分数の加減計算の仕方について確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)
5	②<パフォーマンス課題> 提示された課題を把握する。	②<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	②「約分」の意味を知る。	②「通分」の意味を知る。	②1/6+3/8の計算の仕方を考え、説明する。【思】	②(2 3/4)-(1 2/3)の計算の仕方を考える。	②2/5+0.3の計算の仕方を考え、説明する。【思】	②分数を使った時間の表し方を考える。	②<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	②CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
10	③数直線を使って、1/2、1/3と大きさの等しい分数を見付ける。【主】	③大きさの等しい分数の見付け方を考え、説明する。【思】	③約分の仕方を考える。	③通分の仕方を考え、説明する。【思】	③答えの表し方を考える。【知】	③異分母の帯分数の計算の仕方をまとめる。	③2/3+0.5の計算の仕方を考える。【主】	③分数を使った時間の表し方をまとめる。	③<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	③CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
15	④1/2+1/3の計算の仕方を考え、説明する。【思】	④個性の等しい分数の見付け方を考え、説明する。【知】	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.8△2, 3	④通分の仕方をまとめる。	④計算の仕方と答えの表し方を振り返り、まとめる。	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.13△1, 2	④分数と小数の混じった加減計算の仕方をまとめる。	④40秒を分数で表す。	④<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	④CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
20	⑤異分母の分数の加減計算の仕方をまとめる。	⑤個性の等しい分数のつくり方をまとめる。	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.8△2, 3	⑤3つの分数を通分し、大きさを比較する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-11) 教科書P.12△7, 8	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-16) 教科書P.14△3	⑤適用問題に取り組む。教科書P.15△1【知】	⑤適用問題に取り組む。教科書P.15△1【知】	⑤<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	⑤CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
25	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-1) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.6△1, P.16△1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-3) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥練習問題に取り組む。 教科書P.11△4【知】	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-16) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑥<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	⑥CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
30	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-1) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.6△1, P.16△1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-3) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-16) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑦<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	⑦CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
35	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-1) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.6△1, P.16△1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-3) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-16) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑧<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	⑧CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
40	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-1) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.6△1, P.16△1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-3) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-16) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑨<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	⑨CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)
45	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-1) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.6△1, P.16△1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-3) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-16) ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年11-19) ・ステップ2	⑩<パフォーマンス課題> 本欄の寸法が配置場所に適しているか判断する。【思・ループリック評価】	⑩CBT単元テスト【知】 (分数のたし算とひき算)

1.1. ならした大きさを考えよう [平均] 単元計画 【新しい算数5下 東京書籍】

単元の目標	(1) 平均の意味について理解するとともに、測定した結果の平均を求めることができる。 (2) 概括的に捉えることに着目して、測定した結果を平均する方法や平均から全体量を求める方法を図や式などを用いて表現している。 (3) 平均の意味や、測定した結果を平均する方法を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①平均の意味や、測定した結果を平均する方法を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりする。	①概括的に捉えることに着目して、測定した結果を平均する方法や平均から全体量を求める方法を図や式などを用いて表現している。	①平均の意味や、測定した結果を平均する方法を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりする。

小単元	1	2	3	4	5	6
	平均と求め方			平均の利用	まとめ	単元末テスト
目標	「平均」の意味と求め方について理解する。 (教科書P.18~20)	平均から全体量を求める方法を、平均の意味や図を基にして考え、説明する。 (教科書P.21)	値に0がある場合の平均の求め方や、離散量でも平均は小数で表す場合があることを理解する。 (教科書P.22)	真に近い値を得るために、測定値の平均を求める場合があることを理解する。 いくつかの数値があって、その中にほかと大きく違う値がある場合に、目的によってはその値を除いて平均を求める場合があることを理解する。(教科書P.23~24)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。	

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●平均の意味と求め方を理解し、平均を計算で求めることができる。		① ○も含めて平均を求めることや、離散量の場合は平均を小数で表すことがあることを理解している。	① ○測定する対象が持つ真に近い値を知るために、測定値を平均する場合があることを理解している。		① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】		① ●平均の意味や数直線に表した数量の関係に着目して、平均から全体量を予測する方法を考え、説明している。			① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○ならした大きさに関心を持ち、平均を計算で求める方法を考えようとしている。				① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ(目安:分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリルの活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(3年3-まとめ)	※A1ドリル(5年12-2)	※A1ドリル(5年11-1)	※A1ドリル(5年11-2)	※共通ドリル(5年12-3、12-6)	※A1ドリル(11-まとめ)
0	①<既習内容の確認> 「ならす」という意味を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。	①CBT単元テスト【知】 (平均)
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	②全体量を予想する方法を考え、説明する。【思】	②0を含む平均の求め方を考える。	②測定には誤差が伴うことを捉え、より正確な値を求める方法を考える。	②《パフォーマンス課題》 今まで掛かった料金を基に、お得に映画を見る方法を判断する。【思・ルーブリック評価】	
10	③棒グラフを使って、凹凸をならした量を求める。	③平均を使うと、全体量を予想できることをまとめる。	③0を含む平均の求め方について話し合う。	③真に近い値を知るため、測定値の平均を求めることをまとめる。	個別・協働	個別
15	④ならした量を計算で求める方法を考える。【主】	④全体量と平均から個数を求める。	④0を含めて考えること、離散量でも小数で表すことがあることをまとめる。	④ほかと大きく違う値があるときの平均の求め方を考える。		
20						
25	⑤「平均」の意味を知り、平均の求め方をまとめる。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年12-5) 教科書P.21△3	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.22△4	⑤目的によっては、ほかと大きく違う値を除いて平均を求めることをまとめる。	個別・協働	個別・協働
30	⑥適用問題に取り組む。【知】 教科書P.20△1	⑥共通ドリル(5年12-4) 教科書P.21△3 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉〈活用問題〉〈問題づくり〉〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉〈活用問題〉〈問題づくり〉〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥適用問題に取り組む。【知】 教科書P.24△2		
35	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年12-1) ・ステップ2			⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉〈活用問題〉〈問題づくり〉〈探究活動〉から適切なものを設定する。	個別	個別
40						
45					⑧<単元の振り返り>【主】	⑧<振り返り>

13. 面積の求め方を考えよう [四角形と三角形の面積] 単元計画 【新しい算数5下 東京書籍】

単元の目標	(1) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解し、公式を用いて面積を求めることができる。 (2) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの構成要素や性質に着目し、既習の面積の求め方を基にして、図や式を用いて面積の求め方を考え、表現している。 (3) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。										
単元の評価規準	知識・技能			思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度			
	① 平行四辺形、三角形、台形、ひし形の面積の計算による求め方を理解している。			① 図形を構成している要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導いている。				① 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。			

小単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	(1) 平行四辺形の面積の求め方			(2) 三角形の面積の求め方			(3) いろいろな四角形の面積の求め方		(4) 三角形の高さと面積の関係	まとめ	単元末テスト
目標	平行四辺形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明する。 (教科書P.42~44)	平行四辺形の性質に着目し、面積を求める公式を考える。 (教科書P.45~46)	平行四辺形の高さが外と内にある場合を統合的に捉える。どんな形の平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。 (教科書P.46~48)	三角形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明する。 (教科書P.49~50)	三角形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明する。 (教科書P.51~52)	三角形の高さが外と内にある場合を統合的に捉える。どんな形の三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。 (教科書P.52~54)	台形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明する。 (教科書P.55~57)	ひし形やたこ形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明する。 (教科書P.58~59)	三角形の底辺を固定して高さを変化させたとき、面積は高さに比例することを理解する。 (教科書P.60)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。	

評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】		① 平行四辺形の底辺、高さの意味を理解し、公式を用いて面積を求めることができる。	① 平行四辺形の面積は形によらず、底辺の長さが高さによることを理解している。		① 三角形の底辺、高さの意味を理解し、公式を用いて面積を求めることができる。	① 三角形の面積は形によらず、底辺の長さが高さによることを理解している。	① 台形の上底、下底、高さの意味を理解し、公式を用いて面積を求めることができる。		① 三角形の底辺を固定し、高さを変化させたときに、面積は高さに比例することを理解している。		① 単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○平行四辺形の性質に着目し、面積の求め方を長方形の面積の求め方に帰着して考え、説明している。		① ○平行四辺形の性質に着目し、高さを表す垂線の足が平行四辺形の外にある場合と内にある場合を統合的に捉え、説明している。	① ○三角形の性質に着目し、面積の求め方を平行四辺形や長方形の面積の求め方に帰着して考え、説明している。	① ●倍積変形した平行四辺形の底辺の長さが高さに着目して、三角形の面積の公式を考え、説明している。	① ○平行線の性質に着目し、高さを表す垂線の足が三角形の外と内にある場合を統合的に捉え、高さについて説明している。	① ○倍積変形した平行四辺形の底辺の長さが高さに着目して、台形の面積の公式を考え、説明している。	① ○既習の面積の求め方を活用して、ひし形やたこ形の面積の公式を考え、説明している。		① ●数学的着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○平行四辺形を長方形に変形すればよいことに気付き、平行四辺形の面積を考えようとしている。			① ○三角形を面積の求め方が分かっている図形に工夫して変形し、その面積を求めようとしている。						① ●単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ (目安：分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(4年13-1)	※共通ドリル(5年14-1)	※共通ドリル(5年14-2)	※共通ドリル(5年14-3)	※共通ドリル(5年14-12)	※A1ドリル(5年13-2)	※共通ドリル(5年14-5)	※共通ドリル(5年14-7)	※共通ドリル(5年14-8)	※A1ドリル(5年13-3)	※A1ドリル(5年13-まとめ)
0	①<既習内容の確認>長方形と正方形の面積の求め方について確認する。	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①《パフォーマンス課題》第1時で提示された課題を再度把握する。	①CBT単元テスト【知】(四角形と三角形の面積)
5	②《パフォーマンス課題》提示された課題を把握する。	②平行四辺形の「底辺」「高さ」の意味を知る。	②高さが平行四辺形の外にある場合の面積の求め方を考える。	②三角形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。【主】	②三角形の「底辺」「高さ」の意味を知る。	②高さが三角形の外にある場合の面積の求め方を考える。	②台形の面積の求め方を、既習の図形に帰着して考え、説明する。【思】	②ひし形の面積の求め方を、既習の図形に帰着して考える。	②三角形の底辺を固定したときの、高さとの関係性を調べる。	②《パフォーマンス課題》いろいろな形をした窓の面積を基に、断熱シートを貼る窓を判断する。【思・ルーブリック評価】	
10	③平行四辺形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。【主】	③底辺をどこにみるかで高さが決まることを押さえ、平行四辺形の面積を求める公式を考える。	③平行四辺形の高さを捉え、面積の求め方を考え、説明する。【思】	③三角形の面積の求め方を説明する。【思】	③倍積変形した平行四辺形の面積を求めるときに必要な長さを考え、説明する。【思】	③三角形の高さを捉え、面積の求め方を考え、説明する。【思】	③面積を求めるために使った長さを、台形の「上底」「下底」「高さ」を押さえる。【知】	③対角線の長さを使って、ひし形の面積を求める公式を考え、説明する。【思】	③三角形の面積は、高さに比例することをまとめる。	③適用問題に取り組む。【知】教科書P.60④	個別
15	④同じ高さの長方形に変形した平行四辺形の面積の求め方を説明する。【思】	④平行四辺形の面積を求める公式をまとめる。	④平行四辺形の高さについてまとめる。	④三角形の面積の求め方をまとめる。	④適用問題に取り組む。【知】教科書P.52△1	④三角形の高さについてまとめる。	④台形の面積を求める公式をまとめる。	④ひし形の面積を求める公式をまとめる。	④適用問題に取り組む。【知】教科書P.60④	個別・協働	個別
20	⑤平行四辺形の面積の求め方をまとめる。	⑤適用問題に取り組む。【知】教科書P.46△1	⑤底辺が等しく高さが平行線の幅と等しいとき、面積が等しくなることを押さえる。【知】	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-2)教科書P.48△2、3	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-9)	⑤底辺が等しく高さが平行線の幅と等しいとき、面積が等しくなることを押さえる。【知】	⑤台形の面積を求める公式をまとめる。	⑤ひし形の面積を求める公式をまとめる。	⑤適用問題に取り組む。【知】教科書P.60④	個別	個別
25										個別・協働	個別
30										個別	個別
35	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ3 <意味付け><概念形成><活用問題><問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※A1ドリル(5年13-1)・ステップ2	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-2)教科書P.48△2、3	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-9)	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-4)教科書P.54△2	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-13)教科書P.54△2	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-14)教科書P.57△1	⑥ひし形の面積の求め方を活用して、たこ形の面積の求め方を考える。	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1 ※共通ドリル(5年14-16)教科書P.60④	個別・協働	個別・協働
40										個別	個別
45										③<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>

15. 割合をグラフに表して調べよう [帯グラフと円グラフ] 単元計画 【新しい算数5下 東京書籍】

単元の目標	(1) 帯グラフや円グラフの特徴とそれらの用い方や、データの収集や適切な手法の選択などを理解し、統計的な問題解決をすることができる。 (2) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察することができる。 (3) 統計的な問題解決の方法について、数学的に表現・処理した過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く活用しようとしている。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①帯グラフや円グラフなどの特徴とそれらの用い方を理解している。 ②データの収集や適切な手法の選択について理解している。 ③帯グラフや円グラフを活用して、統計的な問題解決をすることができる。	①目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目しながら、結論について考察している。 ②問題を解決するために適切なグラフを選択して判断している。	①統計的な問題解決の方法について、数学的に表現・処理した過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしている。

小単元	1	2	3	4	5	6	7	8
	(1) 帯グラフと円グラフ					まとめ		単元末テスト
目標	収集したデータの特徴に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択するという課題を明確にする。 (教科書P.82~84)	帯グラフや円グラフの特徴を理解し、グラフを基にデータの傾向を読み取る。 (教科書P.84~85)	帯グラフや円グラフのかき方を理解する。 (教科書P.86~87)	これまでの学習を振り返り、統計的な問題解決の方法を理解する。 (教科書P.87~88)	複数のグラフから、割合や絶対量を読み取り、データの特徴や傾向について説明する。 (教科書P.89)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。		

評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ○帯グラフや円グラフは、割合が視覚的に捉えやすいというよさに気付いている。	① ○帯グラフ、円グラフの特徴を理解し、グラフを基にデータの傾向を読み取ることができる。	① ●帯グラフや円グラフのかき方を理解し、かくことができる。	② ○統計的な問題解決の方法について理解している。	③ ○複数のグラフから統計的な問題を解決することができる。		② ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】				① ○帯グラフや円グラフから問題に対する結論を考え、説明している。	② ●複数のグラフから、データの特徴や傾向を読み取り、問題に対する結論を考え、説明している。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】		① ○帯グラフと円グラフを基に、データの傾向を捉えようとしている。				① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしている。	

学習の流れ (目安:分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(3年6-2)	※共通ドリル(5年16-1)	※A1ドリル(5年15-1)	※共通ドリル(5年16-2)	※A1ドリル(5年15-2)	※A1ドリル(5年15-まとめ)	※A1ドリル(5年-おすすめ問題)	※単元のドリルで間違えた問題
0	①<既習内容の確認> これまでに学習してきたグラフを確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや宿題で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや宿題で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや宿題で、つまずきが見られた問題)	①2つの帯グラフの違いを確認する。	①<パフォーマンス課題> 第1時で提示された課題を再度把握する。	①<パフォーマンス課題> アンケート結果から分かることを、適切なグラフに表して説明する。【思・ルーブリック評価】	①C B T単元テスト【知】 (帯グラフと円グラフ)
5	②<パフォーマンス課題> 提示された課題を把握する。	②帯グラフと円グラフの特徴を調べる。【知】【主】	②低学年と高学年それぞれのメニュー別の人数の割合を求め、百分率で表す。	②低学年、高学年それぞれのグラフからデータを読み取り、気付いたことを話し合う。	②2つの帯グラフから、データの特徴を読み取る。【知】	②<パフォーマンス課題> アンケート結果から分かることを、適切なグラフに表して説明する。【思・ルーブリック評価】		
10	③本時の問題場面を把握し、棒グラフを読み取る。	③これまで学習した棒グラフや折れ線グラフと比較しながら、帯グラフと円グラフのよさをまとめる。	③帯グラフや円グラフのかき方の手順を知り、帯グラフや円グラフをかく。【知】	③3つ目のメニューの選び方を考え、説明する。【思】	③30年前と、今のあげパンの人数の多少から考えられることを説明する。【思】	③<パフォーマンス課題> アンケート結果から分かることを、適切なグラフに表して説明する。【思・ルーブリック評価】		
15								
20	④割合を表すグラフとして「帯グラフ」「円グラフ」を知り、読み方を確認する。【知】	④帯グラフと円グラフのよさをまとめる。	④帯グラフや円グラフのかき方の手順を知り、帯グラフや円グラフをかく。【知】	④統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	④割合だけでは判断できないことをまとめる。	④<パフォーマンス課題> アンケート結果から分かることを、適切なグラフに表して説明する。【思・ルーブリック評価】		
25								
30	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.91△1①② ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.91△1③④ ・ステップ2 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤<パフォーマンス課題> アンケート結果から分かることを、適切なグラフに表して説明する。【思・ルーブリック評価】		
35							②<単元の振り返り>【主】	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の直しを行う。 ※単元のドリルで間違えた問題を家庭学習とする。
40								
45							③<振り返り>	

18. 立体をくわしく調べよう〔角柱と円柱〕 単元計画【新しい算数5下 東京書籍】

単元の目標	(1)角柱、円柱の性質について着目し、角柱、円柱の展開図をかいて立体を構成することができる。 (2)図形を構成する要素に着目し、角柱、円柱の構成要素や性質を見だし、その性質を基に既習の図形を捉え直し、説明している。 (3)既習の図形を角柱として捉え直したり、角柱、円柱の性質を考察したりした過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。						
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	①角柱、円柱の性質について着目し、角柱、円柱の展開図をかいて立体を構成することができる。		①図形を構成する要素に着目し、角柱、円柱の構成要素やそれらの位置関係の性質を見だし、その性質を基に既習の図形を捉え直し、説明することができる。		①既習の図形を角柱として捉え直したり、角柱、円柱の性質を考察したりした過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
小単元	角柱と円柱		角柱と円柱の展開図		まとめ		単元末テスト
目標	角柱について、底面の位置関係や底面、側面の形と数を調べることを通して、その意味や性質を理解する。 (教科書P.110~113)	円柱について、底面の位置関係や底面、側面の形を調べることを通して、その意味や性質を理解する。 (教科書P.114)	角柱や円柱について理解を深める。 (教科書P.115)	図形の構成要素に着目して、角柱の展開図のかき方や読み取り方を考え、展開図をかいて立体を構成する。 (教科書P.116)	図形の構成要素に着目して、円柱の展開図のかき方や読み取り方を考え、説明する。 (教科書P.117)	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●角柱の意味や性質を理解している。	① ○円柱の意味や性質を理解している。	① ○角柱、円柱の構成要素の位置関係などを理解し、見取り図をかくことができる。	① ○角柱の展開図のかき方を理解し、展開図をかくことができる。	① ○円柱の展開図のかき方を理解し、展開図をかくことができる。		① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】		① ○立体図形の構成要素に着目して、角柱の性質と関連付けながら円柱の性質を見だし、説明することができる。		① ○図形の構成要素に着目し、角柱の展開図から高さ、頂点の集まり方等を読み取り、説明することができる。	① ●図形の構成要素に着目し、円柱の展開図の側面の辺の長さ等を考え、説明することができる。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○角柱の観察を通して、角柱の性質を見いだそうとしている。		① ○身の回りのものを、角柱、円柱という観点で捉え、角柱、円柱のものを見付けようとしている。			① ●単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(4年15-1)	※共通ドリル(5年19-1)	※A1ドリル(5年18-1)	※共通ドリル(5年19-5)	※共通ドリル(5年19-3)	※A1ドリル(5年18-2)	※A1ドリル(5年18-まとめ)
0	①<既習内容の確認> 図形の構成要素について確認する。	一斉	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	一斉	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	一斉	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	個別・協働	②身の回りにある角柱、円柱の形をしたものを探す。【主】	個別・協働	②三角柱の見取り図を基に、展開図について考える。	個別・協働	②《パフォーマンス課題》 いろいろな立体の性質を基に、選んだ花瓶の理由を説明する。【思・ループリック評価】
10	③既習の角柱や円柱を仲間分けする。	個別・協働	③角柱、円柱の見取り図をかく。【知】	個別・協働	③三角柱の展開図をかき、実際に組み立てて確かめる。【思】	個別・協働	③<単元の振り返り>【主】
15	④構成要素に着目して角柱の特徴を調べる。【知】	一斉	④角柱、円柱の性質を調べる。【知】	個別	④円柱の側面の辺の長さを考えて展開図をかき、実際に組み立てて説明する。【知】【思】	個別・協働	
20	⑤「角柱」「底面」「側面」を知る。	一斉	⑤「円柱」を知る。	個別	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-2)	個別・協働	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所を解き直しを行う。 ※A1ドリル(5年おすすめ問題)を家庭学習とする。
25	⑥角柱の側面、頂点、辺の数を調べ、性質をまとめる。【主】	個別・協働	⑥角柱の性質と関連付けながら、円柱の性質をまとめる。	個別	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.116△1	個別・協働	
30	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別・協働	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-6)	個別	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-4、19-7) 教科書P.117△2	個別・協働	③<振り返り>
35	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別・協働	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-6)	個別	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-4、19-7) 教科書P.117△2	個別・協働	
40	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別・協働	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-6)	個別	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-4、19-7) 教科書P.117△2	個別・協働	
45	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3 <意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別・協働	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-6)	個別	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(5年19-4、19-7) 教科書P.117△2	個別・協働	

3. 分数をかける計算を考えよう [分数×整数、分数÷整数、分数×分数] 単元計画【新しい算数6 東京書籍】

単元の目標	(1) 分数の乗法の意味を理解し、乗法の計算ができるとともに、分数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。 (2) 乗法の意味に着目し、乗法の性質を活用して、乗数が分数の場合の乗法の意味を捉え直すとともに、計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。 (3) 乗数が分数の場合を考えることを通じて乗法の意味を捉え直したり、計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
単元の評価規準	知識・技能 ①乗数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法の意味について理解している。 ②分数の乗法の計算ができる。 ③分数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。	思考・判断・表現 ①乗法の意味に着目し、乗法の性質を活用して、乗数が分数の場合の乗法の意味を捉え直すとともに、計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。	主体的に学習に取り組む態度 ①乗数が分数の場合を考えることを通じて乗法の意味を捉え直したり、計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	(1) 分数と整数のかけ算、わり算			(2) 倍数と公倍数		(3) 分数を掛ける計算						単元末テスト
目標	(分数)×(整数)の計算の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。 (教科書P.32~35)	(分数)÷(整数)の計算の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。 (教科書P.36~37)	学習内容を適用して基本的な練習問題を解決する。 (教科書P.38)	分数を掛けることの意味を図や式を用いて考え、説明する。 (教科書P.39~40)	(分数)×(分数)の計算の仕方を、図や式を用いて考え、説明する。 (教科書P.41~42)	計算の途中で約分すると簡単に計算できることや、分数の連乗の計算の仕方を理解する。 (教科書P.42~43)	(整数)×(分数)の計算や、帯分数の乗法計算の仕方を理解し、その計算ができる。真分数を掛けると、積は被乗数より小さくなることを理解する。 (教科書P.43~44)	辺の長さが分数の場合も、面積や体積を求める公式を適用できることを理解する。 (教科書P.45)	整数や小数について成り立つ交換法則、結合法則、分配法則は、分数の場合でも成り立つことを理解する。 (教科書P.46)	逆数の意味とその求め方を理解する。 (教科書P.47)		

評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	①	○(分数)×(整数)の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	①	○(分数)÷(整数)の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	①	●基本的な練習問題を解決することができる。	②	○(分数)×(分数)の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	②	○途中で約分できる分数の乗法計算や、分数の連乗の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	②	●(整数)×(整数)、帯分数の乗法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	③	○辺の長さが分数で表された図形の面積や体積を、公式を適用して求めることができる。	③	●分数の場合でも交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。	②	○逆数の意味とその求め方を理解し、逆数を求めることができる。	②	●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	①	○(分数)×(整数)の計算を、単位分数の何此文と捉えて整数の乗法に帰着して考え、説明している。					①	○分数を掛けることの意味を図や式を用いて考え、説明している。	①	●(分数)×(分数)の計算の仕方について、乗法の性質や比例の考えに基づき、数直線や式などを用いて説明する。		①	○1を基準とした乗数の大小に着目し、被乗数と積の大小関係について数直線を用いて考え、説明する。							
主体的に学習に取り組む態度【主】	①	○分数の乗法に関心をもち、小数の乗法や数直線、図を基に、立式や計算の仕方を考えようとしている。					①	●(分数)×(分数)の計算の意味や計算の仕方に関心をもち、既習の計算や乗法の性質に関連付けて考えようとしている。												

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

時間	※A1ドリル(5年10-まとめ)	※共通ドリル(6年3-1)	※A1ドリル(6年3-1)	※A1ドリル(6年3-2)	※共通ドリル(6年3-14)	※共通ドリル(6年3-6)	※共通ドリル(6年3-8)	※A1ドリル(6年3-4)	※共通ドリル(6年3-15)	※A1ドリル(6年3-7)	※A1ドリル(6年3-5)	※共通ドリル(6年3-8)	
0	①既習内容の確認 既習の小数のかけ算を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①C B T単元テスト【知】 (分数のかけ算)									
5	②《パフォーマンス課題》 提示して、課題把握する。	②約分のある(分数)×(整数)の計算の仕方を考える。	②(分数)÷(整数)の計算の仕方を考える。	②練習問題に取り組む。【知】 教科書P.38Δ1, 2, 3	②数直線で数量関係を捉え、立式する。	②(分数)×(分数)の計算の仕方を考え、説明する。【知】【思】	②8/9×3/10の計算の工夫の仕方を考える。	②(整数)×(分数)の計算や帯分数の乗法計算の仕方を考える。	②辺の長さが分数で表されている長方形の面積や直方体の体積の求め方を考える。	②交換法則、結合法則、分配法則が分数でも成り立つか調べる。	②積が1になる2つの数の組み合わせを見つけて式に表す。		
10	③小数のときの立式を基に、立式する。	③約分のある計算の仕方をまとめる。	③(分数)÷(整数)の計算の仕方を、(分数)×(整数)の計算の仕方と統合的にまとめる。	③式を理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する。【思】	③乗数が小数の場合の乗法を想起して、乗法の意味を捉え直す。【主】	③習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年3-7) 教科書P.42Δ2	③3/4×5/9×2/5の計算の工夫の仕方を考える。	③乗数の大きさと積の大きさの関係を調べる。【思】	③辺の長さが分数のときの、求積公式で求めることをまとめる。	③計算のきまりを活用した計算の工夫を考える。	③「逆数」を知る。		
15	④計算の仕方を考え、説明する。【思】【主】	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.35Δ2	④分子が割る数で割りきれないときの計算の仕方を考える。	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年3-4) 教科書P.38Δ4	④乗数が小数の場合の乗法を想起して、乗法の意味を捉え直す。【主】	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	④計算の工夫の仕方をまとめる。	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.43Δ3	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.45Δ5	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.46Δ6	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.47Δ7		
20	⑤(分数)×(整数)の計算の仕方をまとめる。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年3-2) 教科書P.34Δ1	⑤(分数)÷(整数)の計算の仕方をまとめる。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.44Δ4	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.44Δ4	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.45Δ5	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.46Δ6	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.47Δ7		
25	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.34Δ1	⑥適用問題に取り組む。【知】 教科書P.37Δ4	⑥分子が割る数で割りきれないときの計算の仕方を考える。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。									
30	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。												
35	⑧習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。												
40	⑨習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。												
45	⑩習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3 〈意味付け〉〈概念形成〉 〈活用問題〉〈問題づくり〉 〈探究活動〉から適切なものを設定する。												

※第1時で提示するパフォーマンス課題は、単元「分数でわる計算を考えよう」の第1時でも提示し、同単元の第7時において解決させる。

4. 分数でわる計算を考えよう【分数÷分数】 単元計画【新しい算数6 東京書籍】

単元の目標	(1) 除数が分数の場合の除法の意味を理解し、除法の計算ができるとともに、分数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。														
	(2) 除法の意味に着目し、除法の性質を活用して、除数が分数の場合の除法の意味を捉え直すとともに、計算の仕方を図や式を用いて考え表現している。														
単元の評価規準	(3) 除数が分数の場合を考えることを通して除法の意味を捉え直したり、その計算方法について図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。														
	知識・技能				思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度								
①乗数が整数や分数である場合も含めて、分数の除法の意味について理解している。	①除法の意味に着目し、除法の性質を活用して、除数が分数の場合の除法の意味を捉え直すとともに、計算の仕方を図や式を用いて考え表現している。				①除数が分数の場合の徐法の意味を捉え直したことや、その計算方法について除法の性質や図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。										
1		2		3		4		5		6		7		8	
小単元															
分数÷分数															
目標		分数で割ることの意味を図や式を用いて考え、説明する。(教科書P.51~52)		(分数)÷(分数)の計算の仕方を図や式を用いて考え、説明する。(教科書P.53~55)		計算の途中で約分できるときは、途中で約分すると簡単に計算できること、分数の乗除混合計算の仕方を理解し、その計算ができる。(教科書P.55~56)		(整数)÷(分数)の計算や、帯分数の除法計算の仕方を理解し、その計算ができる。真分数で割ると、商は被除数より大きくなることを理解する。(教科書P.56~57)		数直線を用いた除法の演算決定について理解を深める。(教科書P.58)		分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明する。(教科書P.59~63)		学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	

評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●(分数)÷(分数)の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	② ●途中で約分できる分数の除法計算や乗除混合計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。	② ○(整数)÷(分数)、帯分数の除法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。											① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○分数で割る意味を図や式を用いて考え、説明している。	① ○(分数)÷(分数)の計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて説明している。		① ●1を基準とした除数の大小に着目し、被除数と商の大小関係について、数直線を用いて考え、説明している。	① ○問題場面にあった除法の立式の根拠について、数直線を用いて考え、説明している。	① ○分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明している。				① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。				
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○(分数)÷(分数)の計算の意味や計算の仕方に関心を持ち、既習の計算や除法の性質に関連付けて考えようとしている。		① ○計算の途中で約分すると簡単に処理できることの良さに気付いている。			① ●主体的、対話的に粘り強く学習に取り組むとともに、既習事項を活用して問題解決したことを振り返り、価値付けている。				① ●単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。				

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(5年5-4)	※A1ドリル(6年3-2)	※共通ドリル(6年4-1)	※A1ドリル(6年4-3)	※A1ドリル(6年4-4)	※A1ドリル(6年4-2)	※A1ドリル(6年4-6)	※A1ドリル(6年4-7)
0	①既習内容の確認 既習の小数のかけ算を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①C B T単元テスト【知】 (分数のわり算)
5	一斉	個別・協働	個別・協働	個別	個別	個別	個別	個別
10	②《パフォーマンス課題》 提示して、課題把握する。	②(分数)÷(分数)の計算の仕方を考え、説明する。【思】	②9/14÷3/4の計算の工夫の仕方を考える。 ③3/4÷6/5×1/5の計算の仕方を考える。【主】	②(整数)÷(分数)、帯分数の割り算の仕方を考える。【知】	②問題場面の数量関係を数直線に表し、立式する。	②0.3÷3/2×3の計算の仕方を考える。	②《パフォーマンス課題》 圧縮率から収納できる衣類を判断する。【思・ループリック評価】	
15	個別	一斉	一斉	個別・協働	個別	個別・協働	個別	個別
20	③整数のときの立式を基に、立式の仕方を考える。	③(分数)÷(分数)の計算の仕方をまとめる。	④計算の仕方をまとめる。	③12÷(11/3)と、12÷2/3の計算の商と被除数の大きさを比べる。【思】	⑤立式の理由を説明する。【思】	③自分の考えを説明し、他の考えと比較する。【思】【主】		
25	個別・協働	個別	個別	個別・協働	個別・協働	一斉	個別・協働	個別
30	④式の理由を、数直線や言葉の式などを用いて考え、説明する。【思】	④面積図と数直線を組み合わせた計算の仕方の説明を理解する。【知】	⑤適用問題に取り組む。【知】 教科書P.56△4	④商と被除数の大きさの関係をまとめる。	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年4-18) 教科書P.64△2	④計算する順序を確認する。	④2.02÷2/3×3の計算の仕方を考える。	
35	個別	個別・協働	個別	個別	個別	一斉	個別	個別
40	⑤小数の除法を基に、除法の意味を捉え直す。【主】	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ※共通ドリル(6年4-8) 教科書P.57△5、P.64△1	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ・ステップ3〈意味付け〉 〈概念形成〉〈活用問題〉 〈問題づくり〉〈探究活動〉から適切なものを設定する。	⑤0.2÷2/3×3の計算の仕方を考える。	⑤分数や小数、整数の混じった計算の仕方をまとめる。	
45	個別・協働	個別	個別	個別	個別	個別	個別	個別
	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年3-3) ・ステップ2					⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ・ステップ2 ※共通ドリル(6年4-16)	⑥<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>

7. データの特ちょうを調べて判断しよう [データの調べ方] 単元計画 【新しい算数6 東京書籍】

単元の目標	(1) 代表値の意味や求め方、度数分布表やヒストグラムを理解するとともに、目的に応じたデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について理解する。 (2) 目的に応じてデータをまとめて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察する。 (3) 統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。										
単元の評価規準	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	①代表値の意味や求め方を理解している。 ②度数分布表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解している。 ③目的に応じたデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について理解している。			①目的に応じてデータをまとめて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察している。			①統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとする。				
小単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
				(1) 問題の解決の進め方				(2) いろいろなグラフ		まとめ	単元末テスト
目標	代表値としての平均値について理解する。 (教科書P.100~103)	データをドットプロットに整理する方法を理解し、データの散らばりの様子を考察している。 代表値としての最頻値について理解する。 (教科書P.104~105)	データを度数分布表に整理する方法を理解し、読み取る。 (教科書P.106~107)	ヒストグラムの読み方、かき方について理解する。 (教科書P.108~109)	代表値としての中央値について理解し、平均値や最頻値、中央値を代表値としてまとめる。 (教科書P.110~111)	データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、代表値などを用いて判断する。 (教科書P.112)	これまでの学習に関連して新たな問題を設定し、解決するとともに、統計的な問題解決の方法を理解する。 (教科書P.113~114)	既習のグラフを組み合わせたグラフの読み方を理解する。 (教科書P.115~117)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。		

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ○データの特徴を調べるときに、平均値を用いることがあることに理解している。	① ○ドットプロットに表す方法や、データの特徴を調べるときに最頻値を用いることがあることを理解している。	② ●散らばりの様子を調べると、データの特徴が分かりやすくなることを理解し、データを度数分布表に整理したり、度数分布表を読み取ったりすることができる。	② ○ヒストグラムに表すと、データの特徴や分布の様子が分かりやすくなることを理解し、ヒストグラムを読んだり、かいたりすることができる。	① ●データの特徴を調べるときに、中央値を用いることがあることや代表値について理解している。		③ ●目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について理解している。	③ ○いろいろなグラフの特徴を読み取ることができる。		③ ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】		① ○散らばりの様子を調べる必要性について考え、データを統計的に考察している。					① ●データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、代表値などを用いて判断している。	① ○結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察している。		① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ○平均値で比べることのよさに気付いている。			① ○ヒストグラムから、データの特徴を見いだそうとしている。			① ●データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、代表値などを用いて判断しようとしている。		① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしてしている。	

学習の流れ (目安:分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル (5年11-まとめ)	※共通ドリル(6年14-3)	※A1ドリル(6年12-1)	※共通ドリル(6年14-5)	※共通ドリル(6年14-7)	※A1ドリル (6年12-2)	※A1ドリル(6年12-3)	※共通ドリル(6年14-9)	※A1ドリル(6年12-4)	※共通ドリル(6年14-11)
0	①《パフォーマンス課題》提示された課題を把握する。	①★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①★前時の確認>(習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①「日本の年齢別人口」のグラフを見て、特徴を押さえる。	①《パフォーマンス課題》第1時で提示した課題を再提示する。	①C B T 単元テスト【知】(データの調べ方)
5	②<既習内容の確認>グラフや平均など、データの特徴や傾向を捉える方法について確認する。	②「ドットプロット」について知る。	②回数を5回ずつの区間に区切った表に書き込む。	②「ヒストグラム」について知る。	②「中央値」について知る。	②3つのクラスのデータを、統計的な観点で調べて整理した表にまとめる。【主】	②前時の表やドットプロット、ヒストグラムを根拠に、問題の結論が妥当であるか考察する。【思】	②条件に合わせてグラフを選択し、グラフから分かることを読み取る。【知】	②《パフォーマンス課題》データを基に、財布の適正な値段と配送日数を判断する。【思・ルーブリック評価】	②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所の直し直しを行う。 ※A1ドリル (6年12-まとめ) を家庭学習とする。
10	③データから分かることを整理する。	③データをドットプロットに表し、散らばりの様子を調べる。【思】	③「階級」「階級の幅」「度数」「度数分布表」について知る。	③2つのクラスのデータをヒストグラムに表し、ヒストグラムから分かることを確認する。【知】【主】	③3つのクラスの中央値を求める。【知】	③3つのクラスのデータを、統計的な観点で調べて整理した表にまとめる。【主】	③統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	③ダイアグラムや階段グラフ、標本調査の考え方について知る。	③習熟タイム・ステップ0・ステップ1	③共通ドリル(6年14-12)・ステップ2
15	④3つのクラスのデータを比べる方法について話し合う。	④「最頻値」を知り、ドットプロットから調べる。【知】	④度数分布表から、データの特徴を調べる。【知】	④ヒストグラムからデータの特徴を判断しやすくなることをまとめる。	④「代表値」を知る。	④「中央値」について知る。	④統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	④習熟タイム・ステップ0・ステップ1	④習熟タイム・ステップ0・ステップ1	④共通ドリル(6年14-10)・ステップ2
20	⑤3つのクラスのデータの平均値を求めて比べる。【知】【主】	⑤ドットプロットのよさや、最頻値についてまとめる。	⑤散らばりの様子からデータの特徴が分かりやすくなることをまとめる。	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑤統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑤習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑤共通ドリル(6年14-12)・ステップ2
25		⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑥共通ドリル(6年14-12)・ステップ2
30		⑦共通ドリル(6年14-4)・ステップ2	⑦共通ドリル(6年14-1)・ステップ2	⑦共通ドリル(6年14-6)・ステップ2	⑦共通ドリル(6年14-8)・ステップ2	⑦共通ドリル(6年14-10)・ステップ2	⑦統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	⑦習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑦習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑦共通ドリル(6年14-12)・ステップ2
35		⑧共通ドリル(6年14-4)・ステップ2	⑧共通ドリル(6年14-1)・ステップ2	⑧共通ドリル(6年14-6)・ステップ2	⑧共通ドリル(6年14-8)・ステップ2	⑧共通ドリル(6年14-10)・ステップ2	⑧統計的な問題解決の5つの段階に沿って、これまでの学習を振り返る。【知】	⑧習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑧習熟タイム・ステップ0・ステップ1	⑧共通ドリル(6年14-12)・ステップ2
40	⑥「平均値」を知り、まとめる。									
45										⑧<単元の振り返り>【主】

9. 角柱と円柱の体積の求め方を考えよう〔角柱と円柱の体積〕 単元計画【新しい算数6 東京書籍】

単元の目標	(1)角柱や円柱の体積は(底面積)×(高さ)にまとめられることを理解し、角柱や円柱の体積を公式を用いて求めることができる。 (2)角柱や円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素に着目し、既習の体積や面積の求め方を基に類推し、(底面積)×(高さ)を公式として捉え直すことができる。 (3)角柱や円柱の体積の求め方を簡潔かつ確かな表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①角柱や円柱の体積を(底面積)×(高さ)にまとめられることができる。 ②角柱や円柱の体積を公式を用いて求めることができる。	①角柱や円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素に着目し、既習の直方体や立方体の体積の求め方や図形の面積の求め方を基に類推することができる。 ②角柱や円柱の体積は(底面積)×(高さ)で求められることに気付き、公式として捉え直すことができる。	①角柱や円柱の体積の求め方を簡潔かつ確かな表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	1	2	3	4	5	6
	角柱と円柱の体積				まとめ	単元末テスト
目標	四角柱の体積の求め方を理解する。 (教科書P.134~136)	角柱の体積の求め方を理解する。 (教科書P.136~137)	円柱の体積の求め方を理解し、角柱、円柱の体積を求める公式を統合する。 (教科書P.137~138)	直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、角柱とみて考え、図や式を用いて説明する。 (教科書P.139)	学習内容の定着を確認するとともに、単元の学習を振り返り価値付ける。	

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ●四角柱の体積は、直方体での(縦)×(横)を底面積と捉え、(底面積)×(高さ)にまとめられることを理解している。	② ●角柱の体積を、公式を用いて求めることができる。	② ○円柱の体積を、公式を用いて求めることができる。			② ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】	① ○四角柱の体積の求め方を、直方体の体積の求め方を基に類推し、図や式を用いて表すことができる。	② ○角柱の体積の求め方を、(底面積)×(高さ)の式を基に図や式を用いて表すことができる。	② ○円柱の体積の求め方を、角柱とみて考え、体積を求める公式を統合することができる。	② ●直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、角柱とみて考え、図や式を用いて説明することができる。	① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	
主体的に学習に取り組む態度【主】				① ○角柱とみることで、既習の公式が適用できることに気付き、既習を活用するよさを認めている。	① ●単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。	

学習の流れ(目安:分)と学習形態(★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリルの活用 △教科書の問題番号)

家庭学習 時間	※共通ドリル(5年2-12)	※A1ドリル(5年2-1)	※共通ドリル(6年9-3)	※A1ドリル(6年8-1)	※A1ドリル(6年8-2)	※A1ドリル(6年8-まとめ)
0	①<既習内容の確認> 面積を求める公式を確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。	①C B T単元テスト【知】 (角柱と円柱の体積)
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。				②《パフォーマンス課題》 状況に適したキャリアケースを、根拠を持って判断する。【思・ルーブリック評価】	
10	③四角柱の体積の求め方を考える。 【思】	②三角柱の体積の求め方を考える。 【思】	②円柱を細かく等分して並べ替えて四角柱に変形し、その体積を求める。	②直方体を組み合わせた図形の体積を求めるために、(底面積)×(高さ)の式が使えるかを考える。【思】 【主】	個別・協働	個別
15	④高さ1cmの四角柱の体積と底面の面積を比べる。【知】	③角柱の体積を求める公式をまとめる。	③(底面積)×(高さ)の式を計算する。【知】【思】	③体積の求め方をまとめる。		
20	⑤「底面積」を知り、四角柱の体積の求め方をまとめる。	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.137△1	④円柱の体積の求め方をまとめる。			
25	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※作問した問題 ・ステップ2 ・ステップ3<活用問題> 「倒した容器の水の高さを考えよう!」	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年9-1) 教科書P.140△3 ・ステップ2 ・ステップ3<活用問題> 「算チャレ2020 本選6(改題)に挑戦しよう!」	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年9-2、9-4) 教科書P.140△1 ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> 「身の回りの角柱や円柱の体積を求めよう!」	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年9-5) 教科書P.140△2 ・ステップ2 ・ステップ3<概念形成> 「展開図を基に体積を求めよう!」		
30						
35						②即時返却された結果を確認し、解説も参考にしながら誤答箇所を直しを行う。 ※A1ドリル(6年おすすめ問題)を家庭学習とする。
40						
45					⑥<単元の振り返り>【主】	⑥<振り返り>

11-1. 比例の関係をくわしく調べよう [比例と反比例] (比例) 単元計画【新しい算数6 東京書籍】

単元の目標	(1) 比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例の関係にある2つの数量の関係を表や式、グラフに表したり、比例の関係をういて問題解決したりすることができる。 (2) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて表現したり、式の意味を読み取ったりして、変化や対応の特徴を見いだすとともに、問題解決に活用している。 (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
単元の評価規準	知識・技能 ①□、○などの代わりに、x、yなどの文字を用いて関係を表す。 ②比例の意味や性質を理解する。 ③比例の関係をういた問題解決の方法について知る。	思考・判断・表現 ①伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて表現したり、式の意味を読み取ったりして、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かす。	主体的に学習に取り組む態度 ①数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

小単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	(1) 比例の性質		(2) 比例の式		(3) 比例のグラフ		(4) 比例の利用		
目標	比例の性質について理解する。 (教科書P.150~153)	比例の性質について理解を深め、まとめる。 (教科書P.153)	yがxに比例するとき、y=(決まった数)×xと表せることを理解し、比例の関係を式に表す。 (教科書P.154~155)	比例のグラフに表して考察することができ、グラフの特徴を理解する。 (教科書P.156~158)	比例のグラフを考察することを通して、グラフについて理解を深める。 (教科書P.159~160)	比例のグラフを考察することを通して、グラフについて理解を深める。 (教科書P.159~160)	比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明する。 (教科書P.161~164)	比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明する。 (教科書P.161~164)	学習内容を適用して練習問題を解決する。 (教科書P.165)

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②③は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	② ○yがxに比例するとき、xの値が0.5倍、2.5倍になると、yの値も0.5倍、2.5倍になることを理解している。	② ○yがxに比例するとき、xの値が□倍になると、それに伴ってyの値も□倍になることを理解している。	① ●yがxに比例するとき、y=(決まった数)×xと表せることを理解し、比例の関係を式に表すことができる。	② ○比例のグラフは原点を通る直線になることを理解するとともに、比例のグラフを表したり、グラフから読み取ったりすることができる。	② ●比例のグラフは原点を通る直線になることを理解するとともに、比例のグラフを表したり、グラフから読み取ったりすることができる。	② ○傾きの異なる2本の比例のグラフから、それぞれの特徴や事象の様子などを読み取ることができる。		③ ○比例の関係をういた問題解決の方法を理解している。	③ ●基本的な練習問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】							① ●伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて表現して変化や対応の特徴を見いだし問題解決に活用している。		
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ●比例の関心に興味を持ち、その性質を調べようとしている。						① ○比例の関心に注目するよさに気づき、比例の関係を生活や学習に活用しようとしている。		

学習の流れ (目安:分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(5年3-まとめ)	※共通ドリル(6年11-3)	※A1ドリル(6年10-1)	※A1ドリル(6年10-2)	※共通ドリル(6年11-2)	※共通ドリル(6年11-3)	※A1ドリル(6年10-3)	※共通ドリル(6年11-12)	※共通ドリル(6年11-7)
0	①<既習内容の確認> 既習の比例の意味について確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまずきが見られた問題)
5	一斉	個別	個別	個別	個別・協働	個別	個別	一斉	一斉
10	②《パフォーマンス課題》提示された課題を把握する。	③yがxに比例するとき、xとyの値の変わり方の関係をまとめる。	②比例の関係を、式に表す方法を考える。【知】	②x、yの値の組を座標として、座標平面上に点を取り、グラフに表す。【知】	②「決まった数」を求め、比例の関係を式とグラフで表す。	②2本のグラフから、特徴や事象の様子を読み取る。【知】	③「重さ」は「枚数」に比例することをを使って、問題を解決する。【思】	②速さを固定したとき、道のりは時間に比例することをを使って、問題を考える。	②練習問題に取り組む。【知】 教科書P.165△3、4
15	個別	個別	一斉	一斉	個別	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別
20	③比例する2つの数量の関係には、どんな性質があるか調べる。【知】【主】	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.153△1	③比例するときのxとyの対応関係についてまとめる。	③比例の関係を表すグラフの特徴をまとめる。	③比例のグラフを利用して、道のりや時間を求める。【知】	③2つのグラフを1つにまとめて表すよさをまとめる。	④水を入れる時間を固定したとき、比例関係が成り立つことを押さえる。	③比例の関係にあるときは、比の考えも見いだすことができることを押さえる。【知】	
25	④yがxに比例するとき、小数倍、分数倍しても比例関係が成り立つことをまとめる。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 教科書P.165△1	④xに具体的な値を当てはめてyの値を求める。	④比例のグラフから、xやyの値を読み取る。	④既習の数直線も、グラフと同じように比例関係を表していることを確認する。	④水を入れる時間を固定したとき、比例関係が成り立つことを押さえる。	④比例を利用して問題解決できることをまとめる。		③習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1
30	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-12) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	個別・協働	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-1) 教科書P.165△2	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-13) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-4) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-5) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	⑤「厚さ」は「枚数」に比例することをを使って、問題解決する。	④比例を利用して問題解決できることをまとめる。	③共通ドリル(6年11-14) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。
35	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別・協働	個別・協働
40							⑥習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-6) ・ステップ2	⑤習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動> から適切なものを設定する。	
45									

※第1時で提示するパフォーマンス課題は、単元「比例と反比例11-2.反比例」の第1時でも提示し、同単元の第6時において解決させる。

11-2. 比例の関係をくわしく調べよう [比例と反比例] (反比例) 単元計画【新しい算数6 東京書籍】

単元の目標	(1) 反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、反比例の関係にある2つの数量の関係を表や式、グラフに表すことができる。 (2) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて表現したり、式の意味を読み取ったりして、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かす。 (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。						
単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	①反比例の意味や性質を理解する。 ②反比例の関係をグラフに表し、変化の様子から比例との違いに気付くことができる。		①伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて表現したり、式の意味を読み取ったりして、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かす。			①数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。	
小単元	1	2	3	4	5	6	7
目標	反比例の意味について理解する。 (教科書P.166~168)	反比例の性質について理解する。 (教科書P.169~170)	yがxに反比例するとき、 $y=(決まった数) \div x$ と表せることを理解し、反比例の関係を式に表す。 (教科書P.170~171)	反比例の関係をグラフに表して考察することができ、反比例のグラフの特徴を理解する。 (教科書P.171~172)	学習内容を適用して練習問題を解決する。 (教科書P.173)	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	単元末テスト

毎時の評価規準 (○指導に生かす評価 ●記録に残す評価 ※①②は単元の評価規準を参照)

知識・技能【知】	① ○反比例の意味を理解している。	① ○yがxに反比例するとき、xの値が2倍、3倍、…になると、yの値は1/2、1/3、…になることを理解している。	① ●yがxに反比例するとき、 $y=(決まった数) \div x$ と表せることを理解し、反比例の関係を式に表すことができる。	② ●反比例のグラフの特徴を理解し、反比例の関係をグラフに表したり、グラフから読み取ったりすることができる。	① ○基本的な練習問題を解決することができる。	① ●単元で学習したことを基に、問題を解決することができる。
思考・判断・表現【思】		① ●反比例する2つの数量の関係について、比例の関係と関連付けて、表などを用いて調べている。				① ●数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。
主体的に学習に取り組む態度【主】	① ●反比例の関心に興味を持ち、その性質を調べようとしている。					① ●単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。

学習の流れ (目安：分) と 学習形態 (★前時に課した家庭学習との関連、※デジタルドリル活用 △教科書の問題番号)

家庭学習時間	※A1ドリル(6年10-4)	※共通ドリル(6年11-15)	※A1ドリル(6年10-5)	※A1ドリル(6年10-6)	※A1ドリル(6年10-7)	教科書P.174△1(たしかめよう)	※A1ドリル(6年10-まとめ)
0	①<既習内容の確認> 既習の比例の性質について確認する。	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①<★前時の確認> (習熟タイムや家庭学習で、つまづきが見られた問題)	①《パフォーマンス課題》 第1時で提示された課題を再度把握する。	①CBT単元テスト【知】 (比例と反比例)
5	②《パフォーマンス課題》 提示された課題を把握する。	②表を用いて、反比例するときのxとyの関係を調べる。【知】【思】	②反比例の関係を、式に表す方法を考える。	②x、yの値の組を座標として、座標平面上に点を取り、グラフに表す。【知】	②練習問題に取り組む。【知】 教科書P.173△2、3	②《パフォーマンス課題》 動画の画質と通信速度の関係を基に、クラス全員で動画を視聴する際、通信を安定させるための解決策を提案する。【思・ループリック評価】	
10	③反比例する2つの数量の変わり方を調べる。	③反比例の性質についてまとめる。	③反比例の式をまとめる。	③反比例のグラフの特徴をまとめる。	③習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-10) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	個別・協働	
15	④1分当たりに入れる水の量xと、水を入れる時間yの関係を調べる。【主】	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-16) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。	④適用問題に取り組む。【知】 教科書P.171△2	④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-9) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。			④習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-17) ・ステップ2 ・ステップ3<意味付け> <概念形成><活用問題> <問題づくり><探究活動>から適切なものを設定する。
20							
25	⑤「反比例」の意味を知る。						
30	⑥適用問題に取り組む。【知】 教科書P.168△1						
35	⑦習熟タイム ・ステップ0 ・ステップ1 ※共通ドリル(6年11-8) ・ステップ2						
40						③<単元の振り返り>【主】	③<振り返り>
45							